

第1学年 道徳科学習指導案

令和7年2月8日（土）2校時

1 主題名 だれにたいしても C-(12)公正、公平、社会主義

2 ねらいと教材

(1) ねらい ねこを仲間外れにしようとするくまや、仲間外れにされて悲しむねこ、疑問を抱くさるのやり取りなどを通して、誰とでも仲よくすることについて考えさせ、好き嫌いにとらわれず接しようとする判断力を育てる。

(2) 教材 「ジャングルジム」（どうとく1 きみがいちばんひかるとき 光村図書出版）

3 学習指導過程

	学習活動と主な発問 ◎中心発問 ○主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 □評価の視点（評価方法）
導入	1 「仲良くできたこと」を想起する。 ○仲良くできたことを思い出しましょう。 ・○○さんと一緒に遊んで楽しかった。 ・みんなで小金井公園の遠足に行ったことが楽しかった。 だれとでもなかよくするには、どうすればいいのかな	・想起しやすいように、休み時間や行事等で児童が仲良くしている写真をタブレット端末で提示する。 ・仲良くできなかった経験が出て、そのときの心情を聞き、本時のねらいへとつなげる。
展開	2 教材「ジャングルジム」を読んで、話し合う。 ○①②の場面で、くまさんは、どんな気持ちでねこさんに「ちがうところであそんでよ。」と言ったのでしょうか。（ワークシート） ・さるさんと二人きりで遊びたい。 ・ねこさんは、あっちに行ってよ。 ・ぼくだけのさるさんなんだよ。 ◎③④の場面で、くまさんはどんな気持ちだったでしょう。（ワークシート） ・一人ぼっちになっちゃった。悲しいな。 ・昨日のねこさんも、こんな気持ちだったのかな。 ・ぼくはねこさんにひどいことをしちゃったな。 ・みんなで遊べばよかったな。 ・謝りたいな。 ○どんな話をして、3人は仲良く遊べるようになったのでしょうか。 ・ひどいことを言ってごめんね。（くま） ・いいよ。みんなで遊ぼう。（ねこ） ・そうだね。みんなで遊ぼうよ。（さる） 3 これまでの自分の生活を振り返る。 ○この学習を通して、誰とでも仲良くするために必要なことだと考えたことはどのようなことですか。自分自身の生活を振り返って考えてみましょう。	・児童がお話の流れを視覚的に理解できるよう、黒板に場面絵を提示しながらお話を確認してから話し合いを始める。 ・ねこさんの気持ちについて補助発問を行い、仲間外れにされると悲しい気持ちになることに気付けるようにする。 ・児童の発言を座席表にメモし、集約してから分類・整理して板書する。 ・③④のさるさんの表情にも注目させることで、自分の言動が集団にどのような影響を及ぼしたかについても考えられるようにする。 ・役割演技を通して、誰とでも仲良くするために大切なことを考えられるようにする。
終末	4 公正、公平に接することの大切さに関する説話を聞く。	□好き嫌いにとらわれず、誰とでも仲良くしようとする大切さについて考えを深めている。（記述、発言） ・ねらいとする道徳的価値について、感じ方や考え方を深められるようにする。